

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の言動を受容しながら安心、信頼、満足して頂けるように努めています。その人らしく生活が出来るようにその方の持てる能力の活用と維持を図っています。	理念をフロア内に掲示し、毎月1回グループホーム会議で周知を行い共有されています。スタッフの得意なことを実践で活用しお互いに褒めあうことを意識して取り組まれています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の社協ボランティアの定期的な演芸訪問や、傾聴ボランティア小学校との交流、地元の方とのふれあい喫茶の交流が定期的に図れています。	緊急事態宣言中のため地域とのふれあう行事は縮小しています。できることとして、小学校の登下校時にベランダに出て、触れ合う機会を作るよう努められています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設で近隣住民の方を招いて、認知症サポーター研修を実施し、地域の方に認知症の介護に関する質問にも応じています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では毎月の行事や施設の状態等を報告し、ご意見や他の施設の取り組みを伺い、参考にしながらサービス向上に努めています。	昨年度より書面開催となっています。定期的開催がなされている記録が確認できます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市の高齢介護課の担当者や地域包括センターの担当者に運営推進委員会の会議に参加して頂き、意見交換を行っています。貝塚市のグルホ部会に参加、情報交換を行っています。	第8期の介護保険改正に伴い、管理栄養士との連携に関するところで大阪府や貝塚市とも協議を重ねて取り組んでおられます。市内で開かれるグループホーム部会はコロナ禍のため調査日現在は開催されていません。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	施設全体で身体拘束廃止委員会内部研修を行い、身体拘束は行っていません。	施設全体で行っている身体拘束廃止委員会に参加し、日々身体拘束廃止に努められています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、職員の言動に注意を払いながら、虐待防止に努めています。特に言葉づかいはモラル向上委員会を毎月開催し、学ぶ機会を持っています。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用          管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域権利擁護や成年後見人制度の研修は、直接研修に行った職員が内部研修を行い参加しています。現在、対象となる、ご利用者は入居されていません。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得          契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項の説明を行い、希望や疑問等に関しては、その都度答えさせて頂き、納得して頂ける様に努めている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に、ご家族からのご意見や要望は職員から管理者へ報告、マネージャーに相談を行い、必要に応じて総合施設長と協議して運営に反映するように努めています。入り口に、ご意見箱を設置し、投函して頂きます。</p>	<p>コロナ禍により面会ができない状況で、ご意見箱はありますが、活用できない状況です。家族に向けて意見を聞くためにアンケート調査を実施されていますが、内容についての回答がなされていません。</p>	<p>今後に活かすためにも、おうかがいした意見や内容などに関する回答をご家族に返す方法をご検討されては如何でしょうか。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映          代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>管理者もグループホームの会議や職員の意見等を聞き、職員会議や主任リーダー会議等で提案、協議し、反映させている。</p>	<p>スタッフから随時意見を吸い上げて運営に反映できるように取り組まれています。特に「気づきノート」を作成し、そこにコメントを描いたものを拾い上げるなどの仕組みを取り入れておられます。</p>	
12		<p>○就業環境の整備          代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>自己評価や、直属の長の評価等を活用して、勤務状態や業務の姿勢等を把握し、各職員がやりがいを持てるように、賞与や職場環境の整備が行われています</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み          代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修、外部研修に職員が出席し、職員のスキルアップを目指し育成に努めています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上          代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>貝塚市のグループホーム部会に管理者や職員が参加交流し、グループホームに特化した問題の会議、研修を実施して貰い、グループホーム協会の研修にも参加し、新人職員のスキルアップに取り組んでいます。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者との会話を傾聴し、コミュニケーションを図りながら、職員間で情報交換と、状態把握を行っています。利用者の心身の安定が図られ、安心して過ごして頂けるように努めています。	
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時や面会時に、ご家族の要望や不安な事等があれば聞き、声掛け確認しながら、安心や信頼、満足して頂けるように努めていますご利用者の状態の変化時は直ぐに報告させて頂き、ご家族と情報の共有を図っています。	
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接や契約時、ご本人やご家族に不安や希望等を確認し、必要な支援やサービスが出来るように職員間で話し合い、対応しています。	
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリ、レクリエーション等を通して、本人の得意なことは職員も教えて頂き、家庭的な雰囲気を大切にし、なじみの関係を築ける様に努めています。	
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会も多く、ご利用者の状態や近況をその都度、報告し、帰宅願望のある方は、家族様の協力を得て、外出等で気分転換が図れています。通院の付き添いをご家族に協力頂いています。	
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	病院受診後に、食事に行かれる事もあり、親族の方と会われたりご家族も協力的です。近所の方が面会に来てくれています。	コロナウイルス感染症対策として面会が思うようにできない状況が続いています。テラスでの面会を試したことはあるようですが、十分満足のいく対応とはならなかった様子です。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で気が合わない、孤立される方もおられ、席の工夫をし職員がトラブルを回避し、全員でレクリエーションや生活リハビリに参加できる様に支援している。	
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設型の為、3階の特養に入所を希望される方も多く、必要に応じ、いつでも相談や支援に対応しています。入院で退所される時も、病院のカンファレンスに参加し、支援しています。	

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活状況やご家族からの希望や、ご本人のお話を傾聴し、職員間でのアセスメント、モニタリングを行い、サービスの提供に努めています。	日々の活動について「気づきノート」の活用や、入居前のことにについてはご家族からの情報を基に情報収集し、ご本人の意向についてチームで確認しながら実施しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入所される前のアセスメントから、個々の生活状況と馴染みの暮らし方を、ご本人やご家族に確認し、把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を把握して個別の対応を心掛けています。ご本人の生活習慣を知り、チームケアを実施出来るよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時に、ご家族の希望や課題を確認し、グループホーム会議や、サービス担当者会議で多職種連携し、介護サービスに反映しています	看護師や管理栄養士などの多職種で検討し取り組んでいます。帰宅願望の強い入居者に対しての傾聴により安心して入居できるようになるなどの取り組みがなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や個別記録の実施、グループホーム等の会議等、居室担当によるモニタリングを実施し、情報を職員間で共有し、介護サービス計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院時、家族送迎が困難なご利用者には、施設送迎させて頂いています。急な状態変化の場合は、直ぐにご家族に報告し受診に繋げています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社協ボランティア訪問や、傾聴ボランティア訪問、近隣の小学校の行事、だんじり祭りに職員とご利用者と参加させて頂き、地域の方との交流を支援しています。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を利用され、かかりつけ医がないときは相談させて頂いています。受診時に状況提供します。ご家族と併設の看護師と相談しながら、適切に医療を受けられるように支援しています。	週1回の受診のほか、入所以前のかかりつけ医への受診もされており、適切な医療が受けられるよう支援されています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	併設の看護師が毎日巡回に来て、ご利用者の身体状態に応じて相談に乗ってくれ、適切な受診が受けられるように支援してくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に介護サマリーを持参し、情報提供します。退院前に、病院関係者とのカンファレンスに職員、併設の看護師も参加し、状態確認し退院にむけて、支援を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設の看護師が早い段階からご本人、ご家族等と話し合いを行い、事業所に出来る事を十分に説明しながら地域の病院と方針を共有し支援に取り組んでいます。	看取りは行っていませんが、ご利用者・ご家族の思いや意向を確認しながら支援をされ、また、併設の特養の看護師と連携を図り、夜間のオンコール対応もされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、施設の看護師が内部研修を実施し、職員が対応出来る様、指導しています。夜間は、看護師にオンコール体制が有り、状態報告し指示を受けます。緊急時は、看護師が受診に付き添う事も有ります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の立会いの下防火訓練を全職員参加で年2回実施（夜間想定1回）、防災避難誘導訓練（風水害想定）し、放水や消火、避難訓練行っています。地域の方も参加されます。	法人全体や施設で年3回の消防・災害訓練をされており、災害時に備え備蓄も確保されています。	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご利用者の意思を尊重しながら、声掛けや笑顔での対応を行っています。排泄面や衣服の交換時は声掛けにも気を配っています。モラル向上委員会の会議、内部研修参加で適切な対応を学び対応に努めています。	ご利用者の意見を尊重しながら、優しい声掛けでコミュニケーションを取り、また、モラル向上委員会で、内部研修を行い、職員へ周知徹底がなされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活でご利用者が自由な意思表示が出来るように声掛けし、ご本人が自己決定できない時は、ジェスチャーを交え働きかけ、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活リズムを尊重して支援しています。声掛けを行い、ご本人の意思を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の習慣を大切にし、化粧水を塗る、衣類の選択等の支援をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、後片付けをお手伝いして頂いています。食事は、委託ですが、お楽しみ食事会、お茶会は、献立を選択して貰っています。	食事中に穏やかなBGMを流され、落ち着いて食事が出来るよう工夫されています。食器類は厨房からの物で統一されており、個別性が少ない様子がうかがえます。	その人らしい食生活への一歩として、以前に使用していた食器を活用することや陶器の食器を活用するなどの個別ケアに取り組まれる事を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	各個人の食事量や水分摂取量を記録し把握している。管理栄養士と連携し状態に応じて食事形態や量も変え健康管理に努めている。水分が少ない方にはイオン水ゼリーをお茶以外に提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に声掛け誘導し、一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを実施し、歯科往診を受けることが出来ます。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個別の排泄パターンを把握し、失禁がないように利用者個々のトイレ誘導を行っています。夜間もトイレ誘導の支援を行っています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し個々に応じた声掛けにて誘導し支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分量の確保や、運動の機会を提供するように心がけています。排便薬による管理、看護師からの助言で調整も行っていきます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には、週2回の入浴日を決めていますが、ご家族の意向も取り入れ、希望に応じて入浴して頂いています。身体状況に合わせてリフト浴で入浴実施しています。	入浴は週2回でご利用者の方に合わせ入浴されています。また、重度化のより個浴での入浴が困難になった場合は、併設のリフト浴などで対応され、また浴槽内に写真を貼るなど入浴を楽しめるよう支援されています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でお昼寝される方以外も車椅子から、ソファーに移乗し、テレビを観てリラクセスされる。カーテンや室温調節、明かり等、安眠できるように配慮しています。各居室、加湿器の設置しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個々のファイルに確認できるようにしており、服薬支援と確認は、2名で確認し、状態変化時は直ぐに看護師に状態報告して対応できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の興味のある事を把握し、歌や計算ドリル、レクや散歩で気分転換できるように支援し、洗濯たたみや洗濯干し、日常生活として継続的に手伝って頂くようにしています。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとり、ご本人が希望すれば、近隣の散歩にも付き添っています。普段いけないような場所も、ドライブ等を行っています。ご家族が協力的で、ご本人の希望を聞いて外出されています。	現在はコロナ禍で控えてますが、天気の良い日には小学校の下校時間に合わせ、バルコニーを散歩し小学生とのふれあひも行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理できる方は少ない金額で自由に使っています、殆どのご利用者が金銭管理は困難です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人が希望されれば施設電話を利用して、電話をして頂いています。面会が多く、希望は少ないです。手紙は関心が薄いですが、年賀状が届くと喜ばれ、お礼状等は、支援します。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓で日当たりが良く、レースのカーテンを引いて柔らかな光を取り入れています。加湿、空調の調整等、常に快適な温度が保てるように配慮しています。	日当たりもよく窓が大きく明るく広い室内で、キッチンや手洗いは中央に設けられ生活感が感じられ使いやすい環境でした。また、室内の温度・湿度にも気をつけ感染予防に努めておられました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを二つ設置し、思い思いに過ごせるように配慮しています。家族様の面会時にも役立ち、一緒に会話やテレビを楽しまれています。席替えを定期的に行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の為に、ご家族がお部屋を過ごしやすいように考え、工夫されています。使い慣れた家具を置かれ、ご利用者、ご家族の相談には、危険の無いよう配置も考慮し助言します。	ベッドと布団はグループホームの管理ですが、その他のものは、それぞれ馴染みのある物を持参されるなどし、清潔感のある居心地のよい明るい居室でした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険物の管理の徹底を行い、フロア内は自由に歩行して貰っています。居室番号、トイレ等、車椅子、独歩でも見やすい位置に配置しています。		

## V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない